



あなたとお寺をむすぶ架け橋、お寺の元気をお届けします

境内参道整備工事が進行

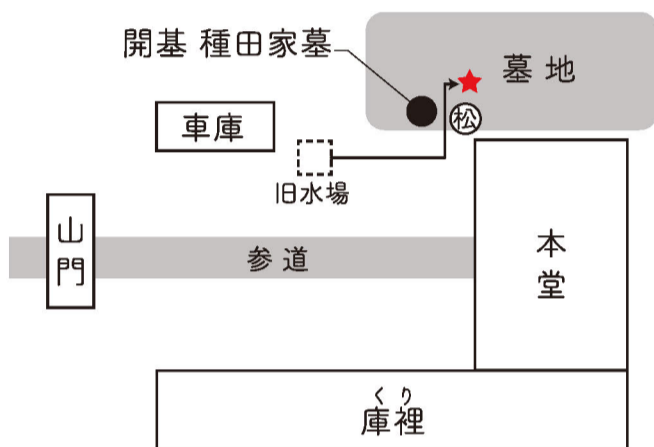
開創三百周年記念整備事業也大詰め

令和元年10月よりはじまりました開創三百周年記念事業ですが、今月で境内参道整備・舗装工事が終了いたします。雪解けて連休中にお墓参りに来られた方、ご法事に来られた方には駐車場の関係でもご不便ご迷惑おかけして申し訳ありませんでした。工事終われば、参道を歩いて山門をくぐっていただけるようになります。車も山門脇を通過して従来通り境内に駐車できます。また、境内整備に伴い墓参り用の手桶・水場も移動しております。



宗教法人広徳寺関係者、記念事業実行委員会の方々が定期的に集まり話し合いを重ねて進行されています。施工業者は前号でお伝えしましたように、前田道路(株)が請け負っております。

墓参り水場移動



開創三百周年記念事業は整備事業と大法要の二つが主たる事業です。今年度で整備事業は終了し、5年後の令和9年5月に、広徳寺の300歳のお祝いと先代住職の33回忌、住職交代の儀式があります。

春のお寺のできごと

春彼岸 / 涅槃会 / フードパントリー / 坐禅会



3月は春のお彼岸でした。残雪ある墓地を踏みわけ、かきわけ、大切な方にお花をお供えする足跡があります。風はまだ北からで肌寒い日がつづいていましたが、境内の陽ざしもようやく春めいてきたころでした。久しぶりの鳥の声。ヒヨドリもジーイジーと鳴きます。

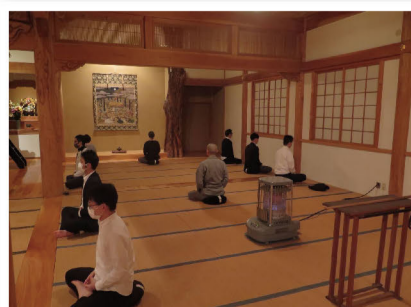
3月17日は春彼岸会と涅槃会のお寺参りがありました。オミクロンが猛威を振るうなか、お参りの数は少なかったですが、ご詠歌のおごそかな声が堂内にひびいておりました。

4月に入るとお寺の裏庭には毎年カタクリの花が咲き、下旬になると桜の開花時期に梅の花も咲きだしました。雪解けて納骨に来られた方が梅の香りを楽しんでいたのが印象的でした。春になるといつきに色彩豊かになり、元気をもらいますよね！

護持会の管轄費から毎年お寺の庭木の手入れを庭師さんにしていただいております。境内を三か所に分け一年ごとに場所を変えて手入れします。今年は裏庭でした。大雪で折れた枝なども片づけました。



お寺を会場に毎月開催している**フードパントリー**（食品無料配布）。毎月お米やお野菜を届けてくださる方がいます。受取に来るのは、子育て世帯を中心とした50世帯の方々。ひとり親であったり、地元が北斗市ではなく親戚のつながりがなかったり、家族に介護すべきする人がいたりさまざまです。また、じょじょにボランティアの方も増え、10人程で仕分けや配布を行っています。「受け取る人」「配る人」「食品を提供する人」互いに優劣なく**まんまるな地域**になれば、という願いでつづけています。



現在、広徳寺は北斗市観光課が中心となって進めている「**着地型観光**」ということに協力させていただいております。ふつうのお寺なのに「観光」というと変な感じですが、お寺で出来ることといえば「**世間から離れゆっくり過ごしていただくこと**」。3月8日14日に北斗市役所の職員の希望者14名が**坐禅**をして身体をととのえ、心をととのえました。お檀家の皆さまも坐禅、してみませんか？心のやすらぎが、仏教です。

Facebook で毎日更新中！ 禅エッセイ



【2月20日】雨水となったので、本堂の玄関にお雛様を飾りました。お寺は彩の少ない場所ですが、一年でこのときだけは華やかです。7歳と3歳の娘たちと一緒に準備しました。「雨水とは、降る雪が雨へと変わり、氷が解け出すころのこと」（白井明大『日本の七十二候を楽しむ 一旧暦のある暮らし』）カレンダーが4月になったから春になったのではなく、雪がすっかりなくなったから春になるのではなく、真っ白な雪原、朝方氷点下であったとしても、気がつけば朝もじよじよに明るくなり、鳥の鳴く声も聞こえて来ました。いろんな条件が複雑に絡み合い、春がそこそこに立ち現れます。

生も一時のくらゐなり、死も一時のくらゐなり。

たとへば、冬と春のごとし。

冬の春となるとおもはず、

春の夏となるといはぬなり。

（道元禪師「現成公案」）

今日はどんな春に出会うでしょうか。

【2月27日】咲という字は、笑の古字と聞きました。たしかに、漢和辞典をひらいてみると、咲という漢字には「わらう」という語義のみで、「はながさく」というのは日本のみでの用法なのだそう。

人間のわらう表情を、はなの咲く姿にたとえる。

なんとも奥ゆかしく。

もうすぐ雪解けとともに、つぼみがほころび花がわらい、私のこころもほころび、わらう。

笑えば、わたしも一輪のはなのようで、春は、いまここに立ち現れてくるようです。

【4月24日】「山野草というのはおもしろいもので、庭で育てていて、周りの雑草をきれいにとってしまっても育たない。シラネアオイ、カキラン、クマガイソウ、みんなそうです。でもうちの家内は雑草を全部きれいにやっちゃうんです」

山野草をこよなく愛する90歳のおじいちゃんです。

禅の言葉に、至道無難 唯嫌揀択（しどうぶなん ゆいけんけんじゃく）という言葉があります。

達磨大師から教えて三代目の禪師さんで、僧璨（そうさん）禪師という方の言葉です。

わがいのちが仏のいのちとして運ばれていくのは難しくはない、ただあれが好くてこれはだめと、選り好みしないことです。

しかもかくのごとくなりといへども、

花は愛惜（あいじゃく）にちり、

草は棄嫌（きけん）におふるのみなり

（道元禪師「現成公案」）

そうはいっても、私たちは山野草の奥さんのように、この草花はよくて他は余計なもの、という生き方をする。選り好みするのがいけない、というのではなく、選り好みするところに、人間の「思い通りにならない」苦しみが生まれてくる。

あれこれとジタバタ動く手を休め、すっとただ座るところから一日をはじめます。

今日も一日心穏やかに過ごせますように。

コウトクジツウシツン フタイウラ 広徳寺通信 舞台裏

どのような思いでどのように作られているのか

こんにちは。副住職です！お陰様で通信も今号で92号となりました。2010年5月より続けてきてまる12年経ちました。その間、「お寺のことが身近になったよ！」とお声掛けいただいたり、発刊まで時間がかかった時には「楽しみにしているから次号待ってますよ」とお電話いただいたり、読んでくださる方がいるからつづけてこれたのだと感謝しています。

ですが、「ずいぶんお金かけているようで」というおしかりもいただいたりもします。たしかに、今まで制作してきて、どのように作って、どのくらいの費用がかかっているのかをお伝えできていなかったことに気づきました。

広徳寺通信はすべて副住職がパソコンでデザインして、作ったデータをインターネットの印刷会社をお願いして印刷しています。本来なら地元還元のため、近くの印刷所をお願いすべきところなのですが、私がデータを作る技術を持ち業者を仲介せずに直接入稿できることから、護持会の費用削減を選び、自分ですべてやっています。

す。ですので、デザイン料はなく、また、最近ではカラーとモノクロで費用がそれほど変わらないため、今号のような大きい紙でも1部10円程、小さい紙のときには4円程で制作しています。

とはいえ、お寺のお仕事の合間に作るのはけっこう大変なのですが、それでも「続けよう！」という思いがあるのは、もっとお寺や仏教のことをお伝えしたい、親しみをもってもらいたいからです。お仕事を忙しくてなかなかお寺に足を運べない、遠方で様子がわからない、お寺との距離がどんどん増えていく気がしています。私自身、隣のお寺や神社でどんな人がどんなことをしているのか、まったくわからない。もっとお寺のことが身近になり、ぬくもりが感じられるように、そのような思いでつづけています。



重要！

秋のお寺参り日程変更のお知らせ

11月18日（金）と案内していましたが秋のお寺参りは
11月20日（日）に変更となります。

10歳になりお坊さんの一歩を踏み出します。

とうげん とくどしき
長男董元の得度式（お坊さん入門の儀式）が予定されています



初夏のお寺の行事予定



6月19日（日）「本堂で心をいやす音楽会」

午後2時開演（1時間半）

詳しくはチラシをご覧ください。

子連れなどなたでも参加できますのでお気軽にお申し込みください。

費予約

入場無料

投げ銭制



7月23日（土）「子ども坐禅会 寺こや自然塾」

午後2時より

詳しくはチラシをご覧ください。

第13回目 / 小学生対象です。坐禅や読経でお寺の生活にしたいもう！

費予約

小学生

日帰り



6/21 (土) 7/21 (土) 8/21 (土)

お寺でボディメイク

午後6時半より（1時間）

シルバー世代への体操を指導している水戸麻衣子先生がインストラクター

費予約

毎加費千円

月一回



新型コロナウイルス感染防止対策として、行事の参加にはマスクの着用・手指の消毒をお勧めしております。各行事は十分な換気・ソーシャルディスタンスを考慮した内容としております。体調不調ある方は行事の参加をお控えください。感染状況を鑑みて行事を中止する場合がございます。

ばいかりゆうえいさんか
梅花流詠賛歌



御詠歌（ごえいか）をいっしょにお唱える仲間を探しています。お仕事でいそがしいその手を休め、おかし懐かしい日本のメロディーを楽しみませんか？

あさ
朝のおつとめ

毎朝6時40分より本堂にて朝のおつとめをしています。15分ほどです。手ぶらでお越しください。何も無い本堂に身をゆだねるところから一日をさわやかに始めてみましょう。

仏事

Q. 「葬儀を1日で済ませたいのですが」

A. 「時間をかけることも供養です」

「葬儀は一日で」という方が増えてきたように感じます。

「時間をかけるということも供養ですよ。時間をかけるということくらいしか、してあげることはないのでは」

そういながらも、ご家族の事情ですから、できるだけ早く葬儀を済ます日程にすることもあります。しかし、手早く葬儀を済ませるにしても、せめてお通夜だけでも前の日に、と思うと、亡くなってその日にもうお通夜、ということもあります。

そうなる頭もきちんと割ることもできないまま、あわただしいままに葬儀が始まり、あっという間に終わってしまう。遺族の気持ちは儀式についてきているのかと不安になる。

以前ネパールを旅行した際、川のほとりで火葬している家族を見ました。2週間ほどかけて葬儀をするということでした。

現代の日本で2週間も葬儀することは不可能でしょうが、なぜこんなにも「時短」なのでしょう。

なぜ、いのちのもっとも深い、大切な時をどっしりと腰をすえて過ごす事ができないのでしょうか。

1円の価値が昔と今ではまったく違うように、1分の価値

も昔と今ではまったく違うのでしょうか。

でも、人生の物理的な時間が今よりも圧倒的に短かった昔の方が、豊かに見えてしまう。

今の人が、時間を効率的に「使って」いるけれど、昔の人ほど、上手に「過ごす」ことはできていない。もっと広大で、私たちが考えるよりも長い時間に身をゆだねる。

そういう営みが本来の供養のかたちです。広徳寺では家族のご事情に合わせて早く葬儀が終わるように日程を組みますが、通夜と葬儀は儀式として別に行っています。ホンネとしては「ゆっくり送ってあげてください」というところです。